

Connor Lilkendey

JAPN 3160 Japanese for International Business

Kumiko Saito

12/16/2024

日本のビジネスにおいて「見える化」という仕事への取り組み方が広く使われている。日本では仕事を効率的に進めるために、見える化を利用することが大切だ。見える化を導入することにより仕事が迅速に進み、正確な決断を下すことができ、情報をわかりやすく説明できるようになる。なので、各社が見える化を使うほうが良いと思う。

まず、見える化とは何だろうか。英語で見える化という意味はvisualization。NRIによると、「マネジメントや日々のオペレーションのプロセスおよび結果を情報として把握・共有化し、早期に課題を見極めることで速やかな対応に結び付ける取り組み。」。可視化とはだいたいパソコンやホワイトボードで作る。見えるかの中で絵や表がよく見える。パソコンでは変更を表すようにアニメーションを使える。よく日常の予定や商品の状況のために使う。会議中でもプレゼンテーションでは見える化をよく使う。

見える化には多くのメリットがある。まず、見える化は情報をわかりやすくする効果がある。文章を読むのには時間がかかるが、情報を絵で伝えられるようにすると、情報が速く伝わり、さらにわかりやすい。複雑な単語を使わずに書くことで、誰でも一目で一番大事なことを見つけられるようになる。例えば、今週するべき仕事を分かりやすく表示すれば、社員は今週の仕事を見てすぐにその仕事に取りかかることができる。また、上司が取引先に新しい商品のアイデアを発表したい場合は、複雑な単語を使って長時間説明するよりも、素早くアイデアのメリットを見せる方が効果的だろう。問題があれば、電話かパソコンで速く会議を作られて問題を解決できる。会議で見える化でどうやって協力や各従業員がすべきかを覚えられる。

また、見える化によって取引先の状況の変化を理解することができる。取引先の販売計画や予報を読めるからです。この情報を使えば今後の状況をより正確に予測でき、的確な決定を下すことができるだろう。

最後に、見える化を使えば、全従業員がよく組織化され、同僚がどのような仕事をしているか理解しやすくなる。毎日見える化で同僚の日程を見えて協力できる。これによ

り、社員間のコミュニケーションも取りやすく、チームワークを高めることができる。それに、チームワークがあれば、同僚と速く効率的に問題を解決できる。

一方、見える化にはデメリットもある。情報を「見える化」するのは難しい。単純に視覚化するのは簡単だが、効果的で分かりやすい「見える化」は作るのが難しい。効果的な「見える化」を作るには、どうやって大事な情報を見せるかという方法がわからなければならない。悪い「見える化」は逆に決定のプロセスを遅らせる。さらに、効果的な「見える化」を作るのには時間がかかる。急な問題が起った場合、素早い対応が必要なため、見える化した情報を準備する時間がない。また、時々見える化がシンプルすぎて、ニュアンスが伝わりにくいことがある。こういう場合は他の方法のほうがいいたろう。

日本文化では見える化が重要だ。日本に行けば、見える化をあらゆる場所で見つけることができるだろう。その理由の一つとして、スペース が少ないという点が考えられる。長い説明のスペースがない時は、絵や表をよく使う。そのため、日本の会社も見える化を使って情報をまとめるのも意外ではない。また、見える化によって組織全体が誰にでも見えるようにするのも大切なことだ。日本では問題の対策をすることがとても大事だが、見える化を使えば問題に迅速に対応できるし、さらには問題が起こる前に対応策を作ることにも役立つ

日本のビジネスにおいては、見える化がたくさん使い方を持っています。わかりにくい情報をわかりやすくする、いい決定を作る、簡単に問題避けることができる。そのため、各社が見える化を使えば、売上は上がり、企業は速く広げると思う。